

菜園場商店街 × 老人ホーム

1150039 河合 晃平

1. はじめに

近年商店街は人口減少・郊外大型ショッピングセンター・後継者問題・駐車状や営業時間等の様々な問題によって衰退している。商店街に空き店舗ができ、それを放置していると連鎖のように空き店舗が増加してしまっている。また高齢者は長時間の移動・目が悪くなることにより運転ができない・家族コミュニティの減少などにより生活の彩がなくなっていると考えられる。

商店街にとっては商店街利用者やイベント参加者が増えるメリット、高齢者には近場で買い物ができる・交通の便が車以外で便利・新しい活動やコミュニティの場が生まれ生活に彩が取り戻されるというメリットがある。

本設計では老人ホームを設計することによって両者がお互いの一部になり商店街には活気を高齢者には生活の彩を与えることができるようなものを提案する。

2. 敷地

2-1. 対象敷地の位置



図1. 対象敷地の一途

2-2. 菜園場商店街の現状

対象敷地には建物のどこかに店舗が入っている建物が46棟、住居系が35棟、空家が27棟、その他9棟、計117棟存在する。(調査方法は目視とする。)お昼が来客数のピークでそれ以外の時間は閑散としている。商店街の長さは約270mで道路により3分割のブロックに分けることができるが一番南のブロック

しかアーケードやイベントをやっていることが有り、商店街としての一体感をあまり感じられない。また商店街のお店の平均営業時間は8:00~19:00で終わる時間がとても早い為、仕事帰りの大人が商店街を訪れる時には閉まっている。



図2. 敷地写真

3. 設計

3-1. 方針

商店街の人や利用者・周りの住人が自然と入りやすくコミュニケーションを取りやすいような設計。老人ホームの施設を気軽に使えるような設計とする。今ある商店街の建物をできるだけ壊さない。

3-2. 入りやすい緩やかな曲線

90度に曲がる道があったとしてもその道の先が視界に入ることにはあまりない。そしてその道に自然と曲がってしまうことはほとんどない。しかし歩いている道に対して緩やかに曲がっている道があるとしたら視線もその方向に通ることや、自然と曲がってしまう可能性は上がる。また、老人ホームに1.5~2.0m程度の庇をつけることによって外部空間よりの半屋外空間がつけられ、道と老人ホームを緩やかにつなげる。

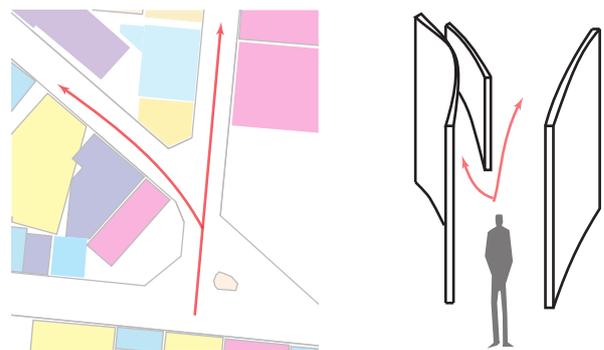


図3. 外部ダイヤグラム

3-3. コモンスペースの設置

老人ホーム内に机やイスが何個か置いてある比較的大きいコモンスペースと人の気配は感じることができ、机やイスの個数を減らして置いてある小さいコモンスペースを設置した。これによって大人数で話したいとき、少し落ち着いて話ができるスペースができる。このスペースも直線ではなく曲線を用いることによって直接的に人の気配を感じるのではなく、時々気配を感じることができる。

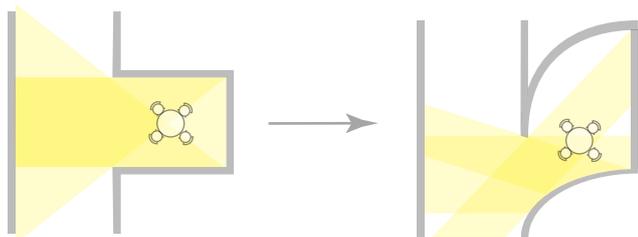


図.4 小コモンスペース

3-4. 多様な内部動線

廊下を廊下だけの機能ではなく廊下の広さに変化を持たすことによって+aの機能を付け足す。例えば廊下を広くとって机やイスを置くだけで談話スペースになる。また壁に本棚を設置することによって図書館等の機能を付け足すことによって外部から老人ホームに入ってきた方でも時間を潰すことができ、老人ホームも商店街の一部となる。

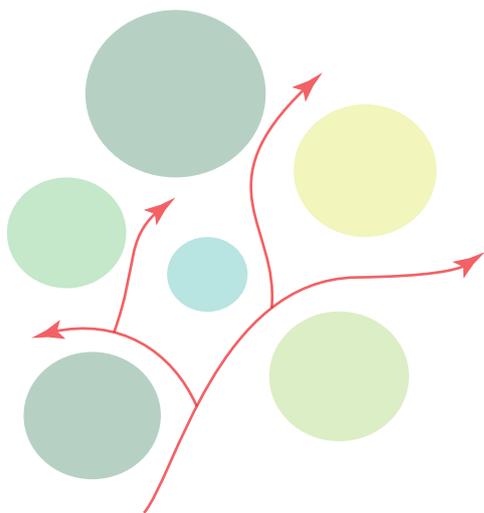


図.5 内部動線

3-5. 個室を凹の形にして採光をとる

対象敷地は南北に伸びている敷地であため、普通の窓の開け方では採光を得るのが難しい。そこで斜めにグリッドをとって南東方向・南西方向に向けて窓をとる。

さらに窓を凹まして内部に窓を持っていくことによって窓付近でしか採光がとれなかったが、採光が奥まで入ると拡散光が部屋に入り明るくなる。また凹ました部分を緑化することにより室内にいても緑を個室でも感じることができる、道沿いにこの窓を設置すれば通行人との会話が生まれる可能性も

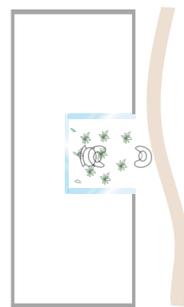


図.6 採光方法

3-6 老人ホームの配置

現在菜園場商店街の南側には多くの店舗が残っていたり、イベントをしたりして活気があるが北側に行くにつれて活気がなくなってきている。そこで3分割した真ん中のブロックにデイケア施設を設置する。デイケア施設は空き店舗を利用するところと潰して新しく建築する2パターンを行なう。1番南のブロックには有料老人ホームを建築、一番北側のブロックには特別養護老人ホームを建築する。いづれもできるだけ空き地・空き店舗の所に設計するが潰してしまった場合は活気の少ない中央と北側の空き店舗を利用する。これによって空き店舗の数は減少し活気を取り戻すことができる。

4. まとめ

計画より老人ホームの中に高齢者以外の方が訪れそして高齢者も商店街を訪れることによって両者共に活性化する。また空き店舗を減らしてデイケアサービスを入れることによって中央・北側の活性化やデイケアにくる商店街や普段買い物にくる以外の人も商店街を訪れる。



図.7 建物概要の前後